第十四講・ごんぎつね③、手紙の書き方

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

　ごんは、お念仏（ねんぶつ）がすむまで、いどのそばにしゃがんでいました。兵十（ひょうじゅう）と加助（かすけ）は、またいっしょに、帰っていきます。ごんは、二人の話を聞こうと思って、ついていきました。兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。

　おしろの前まで来たとき、加助が言いだしました。

「さっきの話は、きっと、そりゃあ、①神様のしわざだぞ。」

「えっ？」

と、兵十はびっくりして、加助の顔を見ました。

「おれは、あれからずっと考えていたが、どうも、そりゃ、人間じゃない。神様だ。神様が、おまえがたった一人になったのを、あわれに思わっしゃって、いろんなものをめぐんでくださるんだよ。」

「そうかなあ。」

「そうだとも。だから、毎日、神様にお礼を言うがいいよ。」

「うん。」

　ごんは、「へえ、こいつはつまらないな。」と思いました。

「おれが、くりや松たけを持っていってやるのに、そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃあ、おれは、引き合わないなあ。」

　その明くる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。兵十は、物置でなわをなっていました。それで、②ごんは、うちのうら口から、こっそり中へ入りました。

　そのとき、兵十は、ふと顔を上げました。と、き

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

つねがうちの中へ入ったではありませんか。こないだ、うなぎをぬすみやがったあのごんぎつねめが、またいたずらをしに来たな。

「③ようし。」

兵十は立ち上がって、なやにかけてある火なわじゅうを取って、火薬をつめました。

そして、足音をしのばせて近よって、今、戸口を出ようとするごんを、ドンと、うちました。ごんは、□とたおれました。兵十はかけよってきました。うちの中を見ると、④土間に、くりが固めて置いてあるのが目につきました。

「おや。」

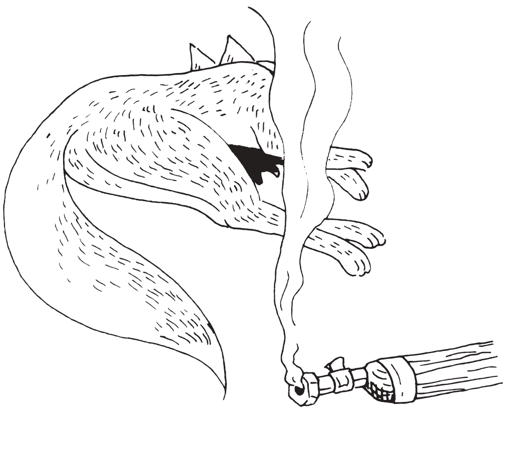
と、兵十は、びっくりして、ごんに目を落としました。

「ごん、おまえだったのか。いつも、くりをくれたのは。」

⑤ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

⑥兵十は、火なわじゅうをばたりと、取り落としました。青いけむりが、まだ、つつ口から細く出ていました。

〈新美南吉（にいみなんきち）「ごんぎつね」より〉



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　文章中で、場面が大きく変わるのはどこからですか。後半の初めの五字をぬき出しましょう。

(2)　――線①「神様のしわざだぞ」とありますが、加助が「神様のしわざ」と思ったのは、どのように考えたからですか。「～と考えたから。」に続くように、三十字以内(いない)で答えましょう。

と考えたから。

(3)　兵十と加助の話を聞いたときのごんの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　もう二度と持っていってやるものかとおこっている。

イ　こんなつまらないことはもうやめようと反省している。

ウ　分かってもらえなくてもしかたがないとあきらめている。

エ　自分の行いを分かってもらえないのをさびしく思っている。

(4)　――線②「ごんは、うちのうら口から、こっそり中へ入りました」とありますが、兵十はそれを見てどう思いましたか。兵十の心の中の言葉を表している一文を、文章中からぬき出しましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5)　――線③「ようし。」に続く言葉を、兵十の気持ちがよく分かるように、十字以内で考えて答えましょう。

(6)　□にもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　ばたり　　イ　ぐったり
ウ　ゆったり　　エ　そろり

(7)　――線④「土間に、くりが固めて置いてあるのが目につきました」とありますが、このことから兵十はどんなことに気づいたのですか。

(8)　――線⑤「ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました」とありますが、このときのごんの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　何を今ごろ言っているんだ。にくらしい兵十め。

イ　人間にはやっぱり気持ちが通じなくて悲しい。

ウ　いろいろ持ってきてやったのになんてひどいんだ。

エ　やっとおれの気持ちを分かってもらえてよかった。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(9)　――線⑥「兵十は、火なわじゅうをばたりと、取り落としました」とありますが、このときの兵十の気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　なんということをしてしまったのだろうと、こうかいする気持ち。

イ　自分が何をしたのかよく分からず、とまどう気持ち。

ウ　ようやくごんをしとめることができて満足する気持ち。

エ　こんなことをするつもりではなかったのにと悲しむ気持ち。

□

---

(10)　この文章で、兵十のごんに対する気持ちはどのように変化していますか。次の中からふさわしいものをそれぞれ選び、記号で答えましょう。

ア　ごんの気持ちを理解している。

イ　ごんのことをにくんでいる。

ウ　ごんに親しみを持っている。

エ　ごんの行いを不思議に思っている。

オ　ごんに感謝している。

□ → □

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　手紙の書き方

◆手紙を書く目的をはっきりさせる◆

例　◎お願いの手紙（人に何かをお願いするときに書く手紙）
・お願いする内容（ないよう）・理由がはっきり分かるように書く。

◎お礼の手紙（人にお礼の気持ちを伝えるときに書く手紙）
・何に対するお礼なのかを、ていねいに書く。

◆手紙の書き方のきまり◆

手紙の書き方には一定の形式がある。
手紙の内容を「前文」・「本文」・「末文」・「後づけ」の四つに分けて書く。

＊相手に対して、ていねいな言葉の使い方を心がける。

＊手紙を出す前に、内容や言葉づかい、文字にまちがいがないか、必ずかくにんする。

例　お願いの手紙

初めてお便りします。
わたしは○○小学校四年一組の田中ゆいといいます。
今日は、お願いがあってお手紙を書きました。

わたしたちは今、川のていぼうの歴史について学習しています。△△博物館にはそのしりょうがあると聞いたので、館長さんに、ぜひ一度クラスみんなでお話をうかがいたいと思っています。うかがう日時は、ご都合のよいときをお知らせいただければありがたいです。

おいそがしいとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

平成二十七年十月十一日
○○小学校　四年一組
田中ゆい

△△博物館　館長様

1 前文
書きだしのあいさつ
・自分をしょうかいする。

2 本文
中心になること
・お願いする内容と、お願いする理由を分かりやすく書く。

3 末文
結びのあいさつ
・お願いする気持ちが伝わるように書く。

4 後づけ
日づけ
自分の名前
相手の名前
の順に書く。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) 手紙を書くときの注意点として正しくないものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア 手紙の目的をはっきりさせて、形式を守って書く。

イ 手紙を出す前にまちがいはないか、かくにんする。

ウ 相手に対しててていねいな言葉づかいで書く。

エ 自分が思っていることを思いつくまま書く。

□

(2) 手紙を書くときに気をつけるべきことは何ですか。ふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で答えましょう。

ア 前文・本文・末文・後づけと、手紙の形式で書く。

イ 前文・本文・末文を書けば、後づけは書かなくてもよい。

ウ 文章は、ていねいな言葉を使って書く。

エ 文章は、いつも話している言葉で書く。

オ 手紙の目的は、末文にていねいに書く。

カ 手紙の目的は、本文にはっきりと書く。。

□

(3) 次の文は、目上の人に出すお願いの手紙の一部分です。しかし、言葉づかいに問題があります。相手に対して失礼のない言葉づかいになるよう、全文を書き直しましょう。

> 初めて手紙を書くよ。わたしは山田小学校四年三組の本田まゆみだよ。お願いがあって手紙を書いたよ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(4)　図書館の司書の人に、「〈きょうりゅう図かん（松原出版(しゅっぱん)）〉という本をさがしてもらいたい」というお願いの手紙を書きます。手紙の本文を考えて書きましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講・確認（かくにん）テスト

次の中から対義語（たいぎご）を選びなさい。

1　長所
ア　美点　イ　短所
ウ　急所　エ　観点

2　勝利
ア　敗北　イ　勝負
ウ　有利　エ　全敗

3　洋式
ア　正式　イ　公式
ウ　知識（ちしき）　エ　和式

4　賛成（さんせい）
ア　反対　イ　公正
ウ　不満　エ　成功

5　便利
ア　未便　イ　無便
ウ　不便　エ　非（ひ）便

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講　ごんぎつね③、手紙の書き方

一題目

(1) その明くる
(2) (例)たった一人になった兵十を、神様があわれに思っている(と考えたから。)
(3) エ
(4) こないだ、うなぎをぬすみやがったあのごんぎつねめが、またいたずらをしに来たな。
(5) (例)うちころしてやるぞ。
(6) ア
(7) (例)いつもくりを持ってきてくれたのが、ごんだったこと。
(8) エ
(9) ア
(10) イ→ア

二題目

(1) エ
(2) ア・ウ・カ
(3) (例)初めてお便りします。わたしは山田小学校四年三組の本田まゆみといいます。お願いがあってお手紙を書きました。
(4) (例)わたしは今、「きょうりゅう図かん(松原出版)」という本をさがしています。そちらの図書館においてありますでしょうか。ありましたらぜひおかりしたいと思っています。調べていただけませんか。

〈確認テストの解答〉

１　イ　２　ア　３　エ　４　ア　５　ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。